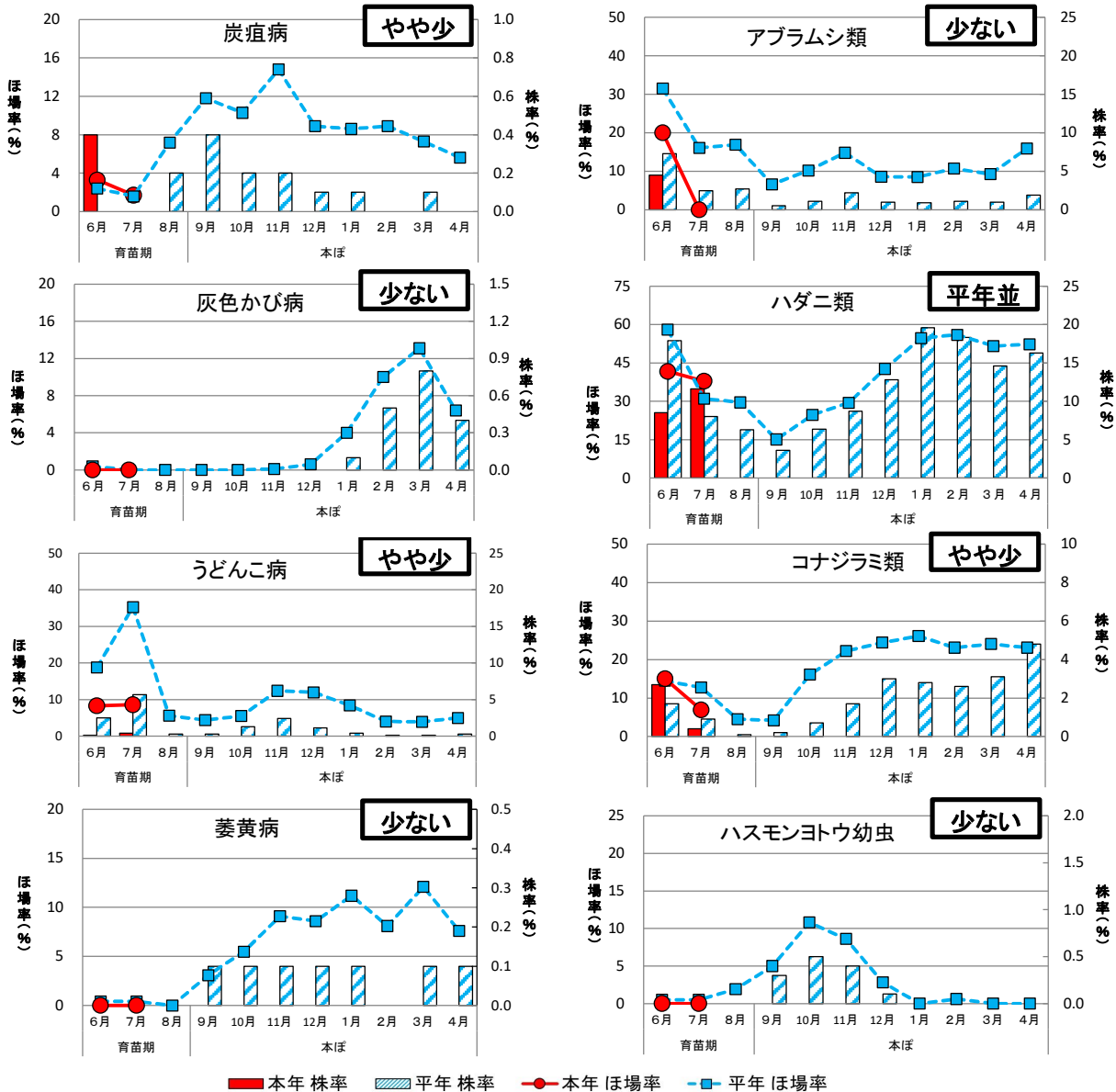


# いちご病害虫情報第2号（7月）

令和5(2023)年7月21日  
栃木県農業環境指導センター

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：58 か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

## ■ 今月の防除ポイント

### 一 育苗期のハダニ類防除 一

ハダニ類は平年並の発生量となっています。親株、子苗ともハダニ類の発生が見られ、多いところではほとんどの株に発生しています。ハダニ類の本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗時の防除を徹底しましょう。

- 1 育苗期の薬剤散布には、天敵や使用時期を考慮してトクチオン乳剤（RACコード I:1B、収穫75日前まで）やアグリメック（I:6、親株育成期、育苗期）等を使用しましょう。また、モベントフロアブル（I:23）を育苗期後半～定植当日に灌注しましょう。
- 2 定植後に天敵導入する際は、天敵に影響の少ない薬剤を計画的に散布しましょう。
- 3 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 4 定植苗の高濃度炭酸ガス処理を適切に行い、本ほへのハダニ類の持ち込みを抑えましょう。

## ■ 今月のトピックス 炭疽病

### 被害について

炭疽病はいちごの重要病害のひとつで、育苗期間中の発生が多い病害です。

本病の病原は糸状菌です。葉上の黒色小斑点（図1）や、急速な株の萎凋（図2）などの症状を引き起こします。萎凋株のクラウンを割断すると、内部が外側から褐変しているのが特徴です（図3）。葉柄やランナー上の黒色陥没病斑（図4）には、多湿時には鮭肉色の孢子塊が形成されます。

### 防除対策について

本病は、発病株や罹病残渣上に形成された胞子が、降雨やかん水等の水はねによって周囲の株に飛散して伝染します。本病の発生を防ぐため、以下のことに注意して栽培しましょう。

- 1 育苗時は点滴かん水を行い、頭上かん水を避ける（水の跳ね上げ防止）。
- 2 発病が確認された株は速やかに取り除き、施設外に持ち出し適切に処分する。
- 3 発病株の周辺の株は定植苗として使用しない（潜在感染のおそれ）。
- 4 予防を目的とした薬剤散布を行う（夕立、台風の後には発生が多いため重点的に）。
- 5 RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する（耐性菌発生防止）。



図1 葉上の黒色小斑点



図2 萎凋した親株



図3 クラウンの褐変



図4 葉柄上の黒色陥没病斑  
（鮭肉色の孢子塊が発生）